

秋期ランナー採苗によるイチゴ 「あまおう」の炭そ病無病親株の確保

病害虫部

1 背景、目的

福岡の代表的ブランド農産物のイチゴ「あまおう」では炭そ病の発生が問題となっています。炭そ病対策として無病の親株を確保することは非常に重要です。そこで、本圃定植後の収穫用株から秋期に発生したランナーを採苗し、次作の親株として利用することで、炭そ病菌に潜在感染している定植株からでも無病の親株を育成できる方法を確立しました。また、「あまおう」では秋期ランナーの発生が少ないので、次作の親株となる無病苗を確保できるよう、秋期ランナーの発生促進技術もあわせて確立しました。

2 成果の内容、特徴

- 1) イチゴ炭そ病菌に潜在感染した株からであっても、ハウスビニル被覆後から年末までに発生した秋期ランナーを採苗すれば、無病親株が育成できます（表1、図1）。
- 2) あまおうでは、定植前の苗に15℃、2週間の低温暗黒処理を行うことにより秋期ランナーの発生を促進できます（表2）。
- 3) 以上から、定植用あまおう苗に15℃、2週間の低温暗黒処理を行い、定植後秋期ランナーを採苗することでイチゴ炭そ病の無病親株が確保できます。

3 主要なデータなど

表1 イチゴ炭そ病潜在感染株由来の秋期および春期苗の炭そ病感染率

年 度	苗の由来	採苗数	炭そ病感染率 (%)
平成19年度	秋期ランナー	21	0.0
	春期ランナー	40	15.0
平成20年度	秋期ランナー	60	0.0
	春期ランナー	97	11.3

注) 採苗時期 秋期ランナー：ビニル被覆後から年末まで
春期ランナー：翌年4月～5月

表2 低温暗黒処理が秋期ランナーの発生促進に及ぼす効果

年 度	低温暗黒処理	本圃定植株数	秋期ランナー数
平成19年度	あ り	120	42
	な し	80	1
平成20年度	あ り	180	76
	な し	40	1

注) 定植日：平成19年度は10月2日、20年度は10月3日。



図1 秋期ランナーからの採苗状況